

- 問1 1221年に後鳥羽上皇が、源頼朝が亡くなった後の鎌倉幕府の混乱に乗じて、朝廷の権力を取り戻そうと兵をあげた出来事を何といいますか。
(2022年 山形県公立入試 類似)
1. 応仁の乱 2. 壬申の乱 3. 承久の乱 4. 平治の乱
- 問2 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして兵を挙げた承久の乱の後、幕府が朝廷の動きを監視し、あわせて京都の治安維持や西国の武士を統制するために設置した機関として正しいものはどれですか。
(2026年 島根県公立入試 類似)
1. 京都所司代 2. 六波羅探題 3. 鎮西探題 4. 問注所
- 問3 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして兵をあげた「承久の乱」ののち、幕府が朝廷の動きを監視し、あわせて京都の警備や西国の統轄を行うために、京都に新たに設置した機関はどれですか。
(2024年 岐阜県公立入試 類似)
1. 六波羅探題 2. 問注所 3. 侍所 4. 政所
- 問4 13世紀後半、モンゴル帝国の皇帝として国号を「元」に改め、2度にわたって九州北部へ大規模な軍隊を派遣した人物と、その出来事の組み合わせとして正しいものはどれか。
(2023年 和歌山県公立入試 類似)
1. トグス・テムル — 文禄・慶長の役 2. フビライ・ハン — 白村江の戦い 3. フビライ・ハン — 元寇 4. チンギス・ハン — 元寇
- 問5 源頼朝が征夷大將軍に任じられ、武士による政治が確立された鎌倉時代において、禅宗が武士の精神的支えとして広く受け入れられた理由として、最も適切な説明はどれか選びなさい。
(2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 加持祈祷によって現世での利益や国家の安泰を願う儀式が、武家政権の権威を象徴するものとして利用されたから。 2. 「南無阿彌陀仏」と唱えるだけで誰でも極楽浄土へ行けるという平易な教えが、学問の機会が少なかった地方武士に歓迎されたから。 3. 法華経こそが正しい教えであると説き、幕府に対して強い忠誠心を持つよう指導したことが、支配体制の安定に寄与したから。 4. 厳しい修行を通じて自己の精神を鍛え、迷いを断ち切ろうとする実践的な姿勢が、命を懸けて戦う武士の気風に合致したから。
- 問6 源頼朝が再建に協力した東大寺南大門などの歴史的背景に関連して、当時の幕府が地方統治のために導入した「守護」の役割について述べた文として、最も適切なものはどれですか。
(2015年 山口県公立入試 類似)
1. 幕府の最高機関として、執権を補佐し政治全般の協議を行った。 2. 朝廷から直接派遣され、地方行政の全般や租税の徴収を司った。 3. 国ごとに設置され、大犯三箇条と呼ばれる軍事・警察的な権限を行使した。 4. 荘園や公領ごとに設置され、土地の管理や年貢の徴収を直接担当した。
- 問7 鎌倉時代に起こった出来事のうち、その時期が最も遅い（新しい）ものを、当時の国際情勢や国内の法整備の流れを踏まえて選びなさい。
(2023年 千葉県公立入試 類似)
1. 北条泰時が裁判の基準を明確にするために定めた御成敗式目 2. 白河上皇が天皇の位を譲ったあとにも政治の実権を握った院政の開始 3. 後鳥羽上皇が隠岐へ流される原因となった承久の乱 4. モンゴル帝国のフビライ・ハンによる服属要求を拒否したことによる元寇
- 問8 1221年に発生した承久の乱において、朝廷軍を破った鎌倉幕府が、朝廷を監視し、あわせて西国の武士を統制するために京都に新しく設置した役所はどれか。
(2016年 和歌山県公立入試 類似)
1. 評定衆 2. 鎮西探題 3. 六波羅探題 4. 政所
- 問9 承久の乱の前後における鎌倉幕府の支配範囲の変化について述べた説明のうち、地頭の任命に関する背景をふまえたものとして適切なものはどれですか。
(2022年 埼玉県公立入試 類似)
1. 乱の結果、幕府は地頭の制度を廃止し、六波羅探題がすべての領地の管理を行うこととした。 2. 乱の以前は東国が中心だった幕府の支配力が、乱後の地頭任命を通じて西日本にも及ぶようになった。 3. 源頼朝が守護・地頭を設置した時点で、すでに西日本のすべての荘園に地頭が配置されていた。 4. 没収された土地には、東国の御家人ではなく京都に住む朝廷側の武士が地頭として再任された。
- 問10 源氏の系図において、源頼朝の子である源実朝が暗殺されたことで幕府が動揺した際、後鳥羽上皇は幕府を倒そうとして兵を挙げました。1221年に起きたこの承久の乱の後、勝利した鎌倉幕府が朝廷の動きを監視し、西国の武士を統制するために京都に設置した役職は何ですか。
(2020年 千葉県公立入試 類似)
1. 鎮西探題 2. 守護 3. 六波羅探題 4. 鎌倉府
- 問11 1221年に起こった承久の乱ののち、鎌倉幕府が朝廷の動きを監視し、京都の警備や西国の御家人の統制を行うために京都に設置した機関の名称として正しいものを選びなさい。この機関は、幕府の組織図において、中央の侍所や政所、問注所といった実務機関とは別に、京都に置かれた出先機関として位置づけられています。
(2021年 秋田県公立入試 類似)
1. 鎌倉府 2. 六波羅探題 3. 大宰府 4. 鎮西探題
- 問12 鎌倉時代中期以降、多くの御家人が経済的に困窮した理由として、当時の相続の仕組みに関連した説明として正しいものを次の中から選びなさい。
(2024年 沖縄県公立入試 類似)
1. 幕府が御家人の領地を強制的に回収し、直轄領として再編する政策を強行したため。 2. 一族の子弟に領地を分けて継承させる分割相続が繰り返され、一人当たりの領地が細分化されたため。 3. 長男のみが全ての領地を継承する単独相続が徹底され、次男以下の不満が武力衝突に発展したため。 4. 惣領が全ての領地を一括管理する制度に変わったことで、一族内での年貢の分配が滞ったため。
- 問13 源頼朝が、全国の国ごとに守護を、荘園や公領ごとに地頭を設置することを朝廷に認めさせた最大の狙いとして、最も適切な説明はどれですか。
(2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 源義経の追討を口実として、全国の軍事・警察権や土地管理権を幕府が握るため 2. 平氏の残党を完全に排除し、平氏が所有していた領地をすべて朝廷に返還するため 3. 北条氏による執権政治を確立するために、朝廷が持つ裁判権をすべて鎌倉へ移すため 4. 源義仲を討伐するための軍資金を、全国の農民から平等に徴収する仕組みを作るため
- 問14 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうと兵を挙げた「承久の乱」において、幕府軍が勝利を収めた後、朝廷の監視や京都の警備、および西国の御家人の統制を強化するために京都に設置された役職を選びなさい。
(2018年 静岡県公立入試 類似)
1. 六波羅探題 2. 侍所 3. 鎌倉府 4. 執権

答え合わせ・解説

問1	答え 3 承久の乱	源頼朝が鎌倉幕府を開いた後、三代将軍の実朝が暗殺されるなど幕府が揺らいでいた時期に、後鳥羽上皇が倒幕を計画しました。しかし、北条政子が御家人たちの団結を訴えたことなどにより幕府側が勝利し、朝廷の勢力は大きく衰退することとなりました。
問2	答え 2 六波羅探題	承久の乱で朝廷側に勝利した鎌倉幕府は、それまで影響力が弱かった西日本への支配を強化する必要がありました。そのため、敗れた後鳥羽上皇らの動きを監視し、西日本の武士たちを統制する拠点として、京都の六波羅の地にこの機関を設置しました。
問3	答え 1 六波羅探題	承久の乱で朝廷側に勝利した鎌倉幕府は、それまで以上に朝廷に対する支配力を強める必要がありました。そのために設置されたのが六波羅探題であり、北条氏の有力者がその職に就いて、朝廷の動向を厳しく監視するとともに、西日本の武士たちの統制にあたりました。
問4	答え 3 フビライ・ハン — 元寇	モンゴル帝国の第5代皇帝であるフビライ・ハンは、高麗を服属させた後、日本にも服属を求めて使節を送り、拒否されると1274年（文永の役）と1281年（弘安の役）の2度にわたって軍を派遣しました。チンギス・ハンはモンゴル帝国の建国者であり、時代が遡ります。また、白村江の戦いは7世紀の出来事です。
問5	答え 4 厳しい修行を通じて自己の精神を鍛え、迷いを断ち切ろうとする実践的な姿勢が、命を懸けて戦う武士の気風に合致したから。	禅宗は、他者の力に頼るのではなく、座禅という厳しい修行を通じて自らの内面を見つめ、悟りを開く「自力」の教えです。常に戦場での決断を迫られる武士にとって、恐怖や雑念を捨て去り、精神を集中させる禅の技法は、単なる宗教以上の実践的な心の規範となりました。このため、幕府の要職にある武士たちの間で特に重んじられました。
問6	答え 3 国ごとに設置され、大犯三箇条と呼ばれる軍事・警察的な権限を行使した。	鎌倉幕府は地方支配を強化するため、国単位で守護を設置しました。守護の職務は、謀反人の搜索や逮捕、殺害人の逮捕、および夜番の勤め（京都大番役）の催促といった軍事・警察的な業務（大犯三箇条）が中心でした。地頭が荘園単位で配置され経済的な実権を握っていたのに対し、守護は国単位の軍事的な統括を担ったのが特徴です。
問7	答え 4 モンゴル帝国のフビライ・ハンによる服属要求を拒否したことによる元寇	鎌倉時代の政治的な流れは、1221年の承久の乱、1232年の御成敗式目制定、そして13世紀後半（1274年・1281年）の元寇という順序になります。白河上皇による院政は平安時代末期の出来事であり、鎌倉時代の出来事ではありません。元寇はモンゴル帝国（元）のフビライ・ハンによる大規模な侵攻であり、この中では最も新しい時期の出来事です。
問8	答え 3 六波羅探題	承久の乱の結果、幕府は朝廷に対して圧倒的に優位な立場に立った。それまで朝廷の影響力が強かった西日本への統制を強めるため、また朝廷の動きを常に監視するために、京都に六波羅探題を設置した。鎮西探題は九州の防備などのために設置された別の役所である。
問9	答え 2 乱の以前は東国が中心だった幕府の支配力が、乱後の地頭任命を通じて西日本にも及ぶようになった。	源頼朝が1185年に守護・地頭を設置した当初、その支配権は東国や平氏の旧領などに限られていました。しかし、1221年の承久の乱において朝廷側の領地を大規模に没収し、そこへ東国の御家人を地頭として送り込んだことで、幕府の影響力は全国規模へと拡大しました。このように、地頭の再配置は幕府の支配体制を西日本まで浸透させる決定的な要因となりました。
問10	答え 3 六波羅探題	源実朝の死により源氏の正統が途絶えた好機を捉え、後鳥羽上皇は倒幕の兵を挙げました。しかし、北条政子の呼びかけにより結束した御家人の軍に敗北しました。幕府は戦後、再発防止のために京都の六波羅に拠点を置き、朝廷を常時監視するとともに、西国の行政や裁判を担う六波羅探題を設置しました。これにより幕府の支配力は西日本にも強く及ぶようになりました。
問11	答え 2 六波羅探題	承久の乱で後鳥羽上皇を中心とする朝廷軍を破った鎌倉幕府が、二度と朝廷が幕府に反旗を翻さないよう監視を強化するために設けたポストです。これにより、それまで朝廷の勢力が強かった西日本に対しても、幕府の支配力が強く及ぶようになりました。
問12	答え 2 一族の子弟に領地を分けて継承させる分割相続が繰り返され、一人当たりの領地が細分化されたため。	鎌倉時代の武士社会では、親の所領を複数の子に分けて譲る分割相続が一般的でした。しかし、代を重ねるごとに御家人一人が所有する領地は小さくなり、収入が減少しました。これに元寇（モンゴル襲来）の軍役負担や貨幣経済への対応が重なり、多くの御家人が土地を質に入れたり売却したりして生活に困窮することとなりました。
問13	答え 1 源義経の追討を口実として、全国的な軍事・警察権や土地管理権を幕府が握るため	源頼朝は、対立した弟の源義経を捕縛するという「軍事的な必要性」を名目にして、守護・地頭の設置を朝廷に認めさせました。これにより、幕府は地方の軍事・警察権（守護）や、土地の管理・年貢の徴収（地頭）を通じて、全国の武士や土地に対する支配力を急速に強めることに成功しました。これは、単なる個人の追討を超えた、武家政権の基礎を固める重要な政治的制度でした。
問14	答え 1 六波羅探題	承久の乱に勝利した鎌倉幕府は、それまで朝廷の影響力が強かった西日本にも支配力を及ぼすようになりました。京都の六波羅にこの役職を置くことで、朝廷の動きを厳しく監視するとともに、没収した領地に新補地頭を任命するなど、幕府による全国支配を確固たるものにしました。